



市民ネットワーク鶴ヶ島は
大野ひろ子を市議会に送っています

12月議会報告 2012.2

発行／市民ネットワーク鶴ヶ島
鶴ヶ島市富士見2-12-15
☎Fax049-271-5116
<http://www.h-ohno.com/>



自転車活用のまちづくりを

—環境・健康にやさしい自転車—

今、自転車がホットです。交通量の増加に伴う渋滞、大気汚染などへの環境対策、心身のリフレッシュなどを目的として通勤・通学・買い物などに自転車を利用する人が増えています。さらに、高齢社会を迎えて、生活圏内を自分の力で移動するためにも、自転車の活用が期待されます。

ところが、自転車道が整備されていない道路での走行は、自転車利用者にとっても、車にとっても大変危険です。特に高齢者や子どもが車道を走ることの危険性が多くの方から指摘されています。(※) また、歩道が無秩序に走行する自転車が多くなり、歩行者との接触事故などが社会的問題になっています。

本来、自転車は車両と位置づけられ車道を走行することになっています。車道での弱者である自転車は、自らの安全のためにも交通ルールを守ることが必要です。そのために、自転車教室の実施や受講の義務化などの対策は効果があるのではないのでしょうか。同時に、ルールを守るような環境の整備が急がれます。

す。車道における自転車通行帯の明示化、自転車、歩行者道における自転車通行と歩行者通行の分離などの整備が必須です。



面積が17・73平方キロメートルと小規模で比較的平坦な地形の鶴ヶ島市では、自転車は絶好の乗り物です。雑木林や小川に季節の変化を感じながら、自転車で移動する人が増えることで、環境に優しく顔が見えるまちづくりが進むでしょう。

※2007年の道路交通法改正により、12歳以下の子ども、高齢者・障害者である場合と、「車道等の状況に照らして自転車の通行の安全を確保するため、歩道を通行することがやむを得ないと認められる」場合には、自転車の歩道通行が認められています。